



子育ての知恵袋

「ことば遊び ～音の数が同じことばを探そう～」

今回は、ことばの音の数を意識した遊びをご紹介します。音の数（文字数）が多いほど、発音が曖昧になったり、音の数自体が変わることもあります。（例：「ゆきだるま」→「ゆきあうま」「ゆきだま」と言うなど）。そのことばがいくつの音からできているのかを意識することは、「よく聞くこと」や「正しい発音」につながります。

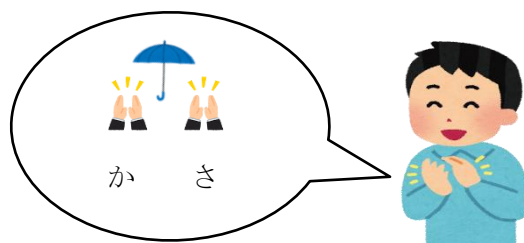
【音の数が同じことばを探そう】

（例）2音（文字）のことば探し

手拍子をいれながら、「2音（文字）のことばを言いましょう。」

「らっぱ」→3音
「ゲーム」→3音
「にんじん」→4音
「ちょうちょ」→3音

「っ」「ー」「ちょ」は1音として数えます。



～ことのはを考える～

子どもへの働きかけ ②

先月の話の続きをしたいと思います。

励ましさ、ごほうび、褒められるなど、そのために人が頑張る事はもちろんあります。それを『外発的動機』と呼びます。

心理学者が体系化した「自己決定理論」によれば、それまでは、報酬や罰といった外部からの刺激が人の行動を左右すると考えられていたところから、自分がやりたいからやるという『内発的動機』の重要性が再認識されました。現在様々な領域で活用されている理論です。

子どもの動機づけをより良質なものに変えていく事が出来るというわけです。

- ①叱られないため、ごほうびを得るため
- ②周囲に認められたい、恥をかきたくない
- ③自分にとって必要、重要と思うため

↓④行動が、自分の目標や価値観と一致する矢印のように下に降り、その先の『内発的動機』になると、出来るようになるため、分かった・出来た喜びを感じるため、自分の成長を感じるためなど確実に主語が「自分」になります。自分で決めて自分で行動する、この主体性の元は子どもの周りに転がっているはずです。

そろそろ勉強しようと思っていた時に限って親から「勉強しなさい」と言われて反発した事はありませんか？筆者は、言われたからする訳ではない、言われてやる気をなくした、するもんかとモヤモヤ気分になったものです。1、2度の出来事でも強烈に覚えています。

このように自分で決めている感覚（自律性）は外からの働きかけによって損なわれやすいもののなのです。

先月、事実を伝えましょうとお話ししました。この例だと、「〇時になったね」（事実の提示）「今から何をする予定？」（事実の問い）というところでしょうか。考えさせ、自分で決めさせる。言葉を変えたと大人も穏やかに子どもと接することが出来ると思います。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望のもてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。